

国立病院機構関東信越グループリハビリテーション科への急変時アンケート調査からみえてきた当院の課題と今後の展望

田中 透[†] 北澤 泰樹 立石 貴之* 大森まいこ**

IRYO Vol. 78 No. 6 (402-407) 2024

要旨

【背景】急性期病院では患者の容態が不安定な中、リハビリテーション（リハ）を開始することが多く、時に急変に至ることがある。その際に適切な対応をとり、患者の状態によっては円滑に医師や看護師に引継ぎができるようにリハ科として対策を講じる必要がある。【目的】国立病院機構関東信越グループのリハ科における急変時対応の現状把握をするとともに、それをふまえて当院での急変時対応を改善すること。【方法】今回、国立病院機構関東信越グループに所属する40施設に急変時対応に関するアンケート調査を郵送による質問紙法にて実施した。【結果】アンケート回収率は70%、28施設から回答が得られた。約7割の施設でリハ中の急変を経験しており、とくに多いのが嘔吐や血圧低下、少数ではあるが心停止など重篤な急変もあった。また急変時マニュアルはあるが約半数の施設でマニュアルが十分に浸透していない可能性があることがわかった。【考察】急変時マニュアルはあってもリハ科は医師、看護師の配置が少なく急変時にリハスタッフが救急コールの判断を求められることもありマニュアルをどのようにして科内スタッフに浸透させるかの難しさが課題であった。当院でもシミュレーショントレーニングの内容を工夫してマニュアルを浸透させたいと考えている。

リハ中に患者の急変に遭遇することがあり、その際に適切な対応をする必要がある。しかしセラピストの技量や知識により対応方法が左右されることがないように科内で統一した対応が可能とすることが大事である。今回、国立病院機構関東信越グループのリハ科における急変時対応の現状把握をするとともに、それをふまえて国立病院機構埼玉病院での急変時対応を改善することを目的にアンケートを送付し結果が得られたためここに報告する。

キーワード 急変時対応, アンケート, シミュレーション

国立病院機構埼玉病院 リハビリテーション科 *国立病院機構甲府病院 リハビリテーション科 **国立病院機構埼玉病院 診療部 (リハビリテーション科) †理学療法士

著者連絡先: 田中 透 国立病院機構埼玉病院 リハビリテーション科
〒351-0102 埼玉県和光市諏訪2-1

e-mail: stamdbymevol2@yahoo.co.jp

(2023年6月5日受付 2024年8月2日受理)

Problems and Future Prospects of Our Hospital as Revealed by the Questionnaire Survey Related to Responding to Sudden Changes of State to the Rehabilitation Department in NHO Kanto-Shinetsu Group

Toru Tanaka, Taiki Kitazawa, Takayuki Tateishi* and Omori Maiko**

NHO Saitama Hospital, *NHO Kofu National Hospital, **NHO Saitama Hospital

(Received Jun. 5, 2023, Accepted Aug. 2, 2024)

Key Words: response to sudden changes, questionnaire, simulation